

## WAなど3社 事業支援DX基盤開発 「守谷モデル」で導入

4月から事業を開始した守谷市の上下水道施設管理等包括業務委託において、受託者のウォーターエージェンシー、中央

設計技術研究所、オリエンタルコンサルタンツは、共同で開発したストックマネジメントを支援するクラウド型施設管理システムを導入した。「守谷モデル」として注目を集める業務委託は、水道・下水道・農業集落排水施設の連転管理業務に、上下水道関連の各種計画策定などのコンサルタント業務を併せた10年間にわたる案件で、O&M企業とコンサル企業の連携によって維持管理を起点とするCAPDサイクルの構築を図り、修繕・改築計画の最適化や適切な資産管理の実践を

指す。

この狙いを実現するツールの一つとなるクラウド型施設管理システムは、事業者提案に盛り込んだ「DX基盤整備」のメニューの一つ。台帳の

データと点検・修繕情報を効果的に活用し、施設の効率運用、リスク管理、アセットマネジメントを支援する機能を実装する。O&M企業とコンサルタンのノウハウが融

合し、現場が使いやすいシステムとなっていることが大きな特徴で、同システムを活用しながら、施設管理および事業経営全体の高度化・効率化を図る。